旧釘子小 命守るプロを養成する専門校に

県外からの入学者も

今年の4月に室根町に救急救命士を養成する専門学校「国際医療福祉専門学校一関校」が開校しました。

平成21年3月に児童の減少により閉校した室根町釘子小学校を活用し、開校した同校。千葉県に本部のある学校法人阿弥陀寺教育学園が運営します。同法人では、千葉県の千葉校、石川県の七尾校でも救急救命士を養成する学科を設置しています。2年課程で医師の指示のもと、気管挿管や薬剤投与などの救急救命処置を施こす救急救命士の国家資格の受験資格を取得できる厚生労働省の認可を受けた指定養成機関です。

一関校への本年度の入学生は、男性26人、女性4人の計30人。市内はもとより千葉県など県外の出身者もいます。また、救急救命士の資格を取得するために勤めていた職場を退職して入学している人もいます。

実習に適した立地条件

同校で学科長として生徒の指導を行っている立岡伸章さんは、「山あり、川あり、また気仙沼の海にも隣接しているこの地は、資格取得のための様々な実習に適した環境」と立地条件の良さを語っています。また「勉強するには、この静かな環境はもってこい」とも語ります。

立岡さんは、「救急救命士の仕事は、患者とのコミュニケーションが何より大切で大事なこと」と語ります。そのため同校では、救命救急士の活動の中で人との会話などがスムーズにできるようにと室根西小学校の運動会の手伝い、月1回の沿岸被災地でのがれき撤去作業、イベントでの救護対応などボランティア活動を積極的に行っています。

最近では、学校の名前も覚えてもらい、地域活動への誘いも受けるようになったとのこと。立岡さんは「生徒一人ひとりが高い志をもって勉強している。必ず2年後にいい結果が出るようにサポートしたい」と生徒の指導の決意を新たにしています。

立岡伸章（たちおかのぶあき）さん

PROFILE　昭和45年埼玉県生まれ。埼玉県で約20年間消防署職員として勤務。退職後、国際医療福祉専門学校に就職。現在、一関校救急救命学科長として生徒の指導に情熱を燃やす。41歳。

再生、活用 かつての学び舎

旧丑石小（大東）

▲労働組合「連合」が沿岸被災地へのボランティアセンターとして9月末までの予定で運営。

旧中川小（大東）

▲高齢者グループホームなどとして「NPOいわい地域支援センター」が運営。

旧天狗田小（大東）

▲解体が終了した後、社会福祉法人「秀和会」が老人福祉施設に再生。

旧千厩中

▲気仙沼市の仮設住宅約220戸が建設されている旧千厩中跡地。

旧折壁小（室根）

▶旧折壁小（室根）も気仙沼市の仮設住宅建設用地として活用される。建設戸数約90戸。

取材のため訪れた閉校舎。かつての通学路は、雑草もきれいに刈られ、校庭も整地されていて、以前の面影のままでした。閉校から5年が経ちますが、今でも周辺の環境整備を地域の人たちが行っているそうで学び舎に対する思いが伝わってきました。

学び舎は、地域の人たちの活動の拠点として、心のよりどころとして役割を果たしていました。少子化などの影響で閉校になった学び舎は、卒業生や地域の人たちに惜しまれながら、いったんその役割を終えました。

平成18年3月に興田小学校として統合のため閉校した大東町興田地区5校のうち旧中川小、旧天狗田小、旧京津畑小は再生され、旧丑石小も短期間であるものの利用されています。気仙沼市の仮設住宅建設用地として旧千厩中と旧折壁小跡地も活用され、新たな息吹が吹き込まれます。

役割を終えた学び舎を、学び舎に愛着を持つ地域の人たちや法人などがよみがえらせています。それらの学び舎は、役割を変えても地域に愛され続けるでしょう。

特集「よみがえる学び舎」（終）